

福島第一原子力発電所の状況

2015年4月21日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (4/21 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	17.2	0.2 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約2.2 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.2 m ³ /h	23.8	4.98 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m ³ /h	20.6	0.23 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約2.1 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (4/21 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	18.0
2号機	循環冷却システム	運転中	18.0
3号機	循環冷却システム	運転中	16.8
4号機	循環冷却システム	運転中	14.2

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘイドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	1号機廃棄物処理建屋	4/21 5:53 ~ 4/21 11:47 移送実施
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	4/20 11:42 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	4/20 11:38 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (4/21 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	運転中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}	ホット試験中 ^{*2}	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2015/3/16～ 1号機原子炉建屋カバー解体工事に向けて準備工事を開始。
- ・2015/4/22 1号機原子炉格納容器内の1階グレーチング上の調査が終了したことから、原子炉格納容器内常設監視計器の再設置作業を実施予定。

〔1号機タービン建屋およびサブドレンに関わる水位〕

- ・2015/4/9 1:10 1号機タービン建屋所内ボイラー室内の水位が、近傍サブドレン(No.1)水位を超えたことに伴い、実施計画第1編第26条「建屋に貯留する滞留水」の表26-2で定める1号機タービン建屋の滞留水水位の運転上の制限「各建屋近傍のサブドレン水の水位を超えないこと」を満足できていないと判断。(その後、ディーゼル発電機(B)室内の水位についても同様に建屋近傍のサブドレン水の水位を超えたことを確認。)
- 4/9～ 上記を踏まえ、各々の室内水位が近傍サブドレン水位を超えない状態に復旧するため、所内ボイラー室内およびディーゼル発電機(B)室内から、1号機タービン建屋への滞留水の移送を適宜実施。また、近傍サブドレン(N1)水の放射能濃度を測定する。
今後、さらに水位を低下させるため、水質の状態を確認しながら滞留水の処理方針を検討し、計画的に移送を実施していく。

< 直近の放射能濃度測定結果および水位、移送実績 >

所内ボイラー室近傍のサブドレン水(N1)、およびディーゼル発電機(B)室近傍のサブドレン水(No.1)の放射能濃度の測定結果は以下のとおり。

所内ボイラー室近傍のサブドレン水(N1) (採取日 4/20)

セシウム 134: 検出限界値未満 (検出限界値: $1.5 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$)

セシウム 137: 検出限界値未満 (検出限界値: $2.2 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$)

ディーゼル発電機(B)室近傍のサブドレン水(No.1) (採取日 4/20)

セシウム 134: $2.0 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$

セシウム 137: $7.7 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$

測定結果は、特定原子力施設に係る実施計画 特定原子力施設の保安第1編第26条表26-3の運転上の制限値(セシウム134とセシウム137の放射能濃度の合計値が $1.0 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$) 以下であることを確認

4/21 13:04 ディーゼル発電機(B)室の滞留水を1号機タービン建屋へ移送開始。14:01、移送停止。

ディーゼル発電機(B)室の滞留水移送前後の水位は以下のとおり。

移送前

実測値: OP 4,400mm(4/21 13:00)

補正值: OP 4,517mm

移送後

実測値: OP 4,190mm(4/21 14:15)

補正值: OP 4,301mm

ディーゼル発電機(B)室近傍のサブドレン(No.1)¹の水位は、4/21 13:00時点でOP5,064mm
14:15時点でOP5,053mm

また、所内ボイラー室の滞留水の水位は以下のとおり。

実測値: OP 4,120mm (4/21 14:35)

補正值: OP 4,185mm

所内ボイラー室近傍のサブドレン(N1)の水位は、4/21 14:35時点でOP5,371mm。²

所内ボイラー室及びディーゼル発電機(B)室の水位を確認した結果、近傍のサブドレン水位より十分低い状態となったことから、4/21 16:28、実施計画 第1編 第26条に定める運転上の制限内への復帰を判断。

1 「N1」としていましたが、正しくは「No.1」でした。(2015年4月22日 訂正)

2 4/21 14:35 に水位を測定したサブドレンを「ディーゼル発電機(B)室近傍のサブドレン(No.1)」としていましたが、正しくは「所内ボイラー室近傍のサブドレン(N1)」でした。(2015年4月22日 訂正)

【海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況】

- [3号機]・2015/2/5～ 海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
その後、4/2よりトンネル天井部の充填作業を開始、4/8までにトンネル部全体の充填が完了するとともに、同量の滞留水の除去が完了。
4/16 トンネル部の充填状況を確認するための揚水試験を実施。
- [4号機]・2015/2/14～ 海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。3/21までに約460m³の充填作業を実施し、トンネル部の同量の滞留水の除去が完了。今後、開口部 および について充填を行う予定。
4/15 9:00～10:39 開口部 に対して、約42m³の充填作業を実施。
- [2号機]・2015/2/24～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。
立坑A、Dともに、4/7までに1サイクル目の充填が完了したことから、4/9、立坑A・Dの1サイクル目の充填状況および、トンネルA・Cの連通量の改善状況を確認することを目的に、揚水試験を実施。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

【H4, H6 エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

- < H4 エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < H6 エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

- < 地下水観測孔サンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- < 地下貯水槽サンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上